# 7月「Regen」
# アントニア・シュルト

1.

梅雨という季節に入って、雨のことをよく考えるのは仕方がないです。例えば、「今日は雨かな」、「何時から降り始めるかな」というような問題が毎朝浮かんできます。その中で、ドイツ人と日本人の基本的な雨に関する予防や思いの違いを改めて気づきました。

2.

ドイツ人も日本人も、雨で濡れることが嫌だという当たり前のことを前提として、異なるところはこのようなことだと気づきました。日本人は濡れないように傘を持っていく人がほとんどだと思います。職場に着くとよく聞かれるのは「今日は雨が降りそうですが、傘をもってきましたか」。

# 7月「雨」
# アントニア・シュルト

3.

。私の場合は、普段は自転車で通勤するので、傘を持っていると、不便や邪魔になるという問題があるため、もっていかないときが多いです。ドイツでも傘を使う人はいるのですが、雨の日、反射的に持っていく人は特に若者の中では日本と比べて、少ないと思います。一方で、レーンコートを着る人が多くて、カプーシュがついているので、つけたら髪の毛も濡れないので、傘より便利だと思われています。

4.

ところが、それより私にとって大きな違いは、濡れることに対する考え方です。例えば、私は家を出るときさえ雨が降っていなければ、帰り道中濡れてしまっても別にかまいません。もちろん、ドイツ人はみんな私と同じように考えているわけではありませんが、ちょっと濡れても問題ないと思う傾向があると思います。日本では、濡れたら風邪をひいてしまうというイメージが強いので、傘を持たずに雨の中で歩いている私をあきれ顔でみたり、傘をくれたりした人が今までに結構いました。最近、日本の「傘文化」に少し馴染んできて、傘を持って行くようになりましたが、今でも自転車に乗って、急にそのシャワーみたいな暖かい雨が降り出したら、びしょびしょに濡れると、正直、楽しいですよ。